



写真1 土砂崩れが発生した広島市安佐南区の現場 [3]

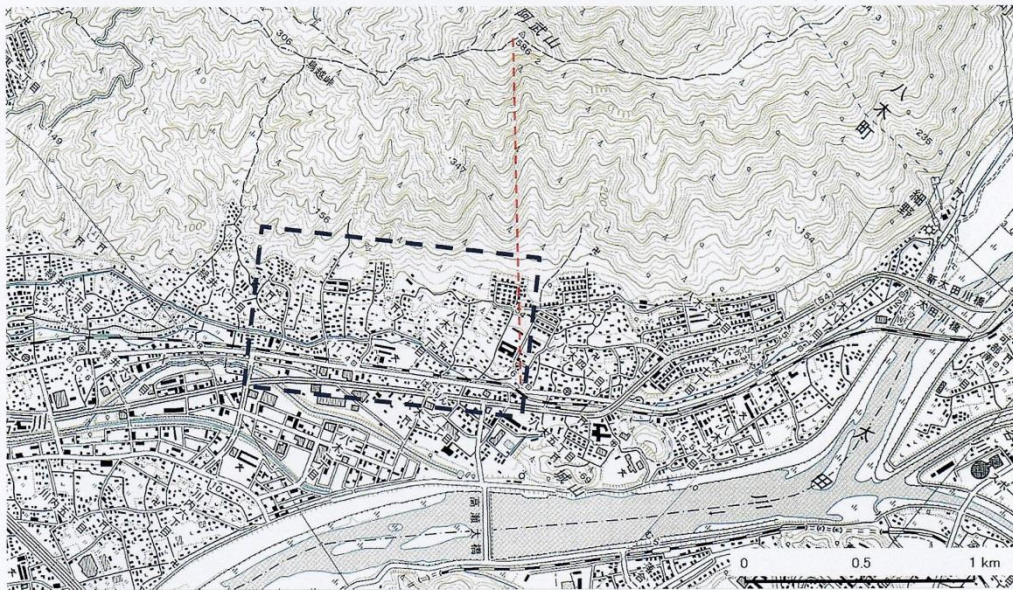


図3 安佐南区八木3,4丁目を中心とした地形図 [5].

青枠は写真1の撮影範囲を、赤い破線は図4中に示す山腹傾斜断面図の位置を示している。

地の地形地盤環境の方にあるのではないと思われる。写真1から明らかなように、土石流に襲われた地区の背後には谷筋に沿った斜面崩壊が認められ、同じ斜面上にありながら谷筋から逸れた地区の被害は大きくないことから、土石流災害がランダムに発生したものではないことは一目瞭然である。このような被災地域の特色は図3と重ね合わせて見てみるとさらに明白になる。実際に被災地を訪問したのは災害から3週間後のことであるが、写真2に安佐南区の県営緑丘住宅周辺、写真3と同じく八木ヶ丘団地周辺の状況を示すように、現地では未だ自衛隊・警察・消防による合同の遺体捜索が行われており、山腹の傾斜が険しくなるほど被災程度が著しい状況を見ることができる。